

“H30年度東京防災学習セミナー”が開催されました。

7日夜、主催は東京都総務局総合防災部災害管理課&講師は奥野幸範（おくの）氏、つくし野1～4丁目自治会の自主防災組織のメンバー15名が参加して、「東京防災」の活用方法、「首都直下地震への備え」のお話を聞いた後、グループワークでは、「つくし野の防災活動の課題について」の討議をしました。



（受講者の意見）

- 1、「高齢者が避難するときの体制が不十分で、ご近所の情報共有化と助け合いが大切だと感じた、従来にはないセミナーでたいへん興味深かった。」
- 2、「今回は、講義の内容が一般的な啓蒙が半分以上、受講者は防災隊のメンバーで、講義内容と受講者のアンマッチが見受けられた。講義内容が事前に摺合せできていればさらに多くの参加者を呼べるのではなかったか。」
- 3、「講義の内容が毎回同じようなもの、こちらから内容を指定できないなら次の講義も同じものと思う。」
- 4、「防災訓練がマンネリ化してだんだん参加者が少なくなっている現状を解決する方法として高木町自治会の事例が参考になるように思うが、そっくりまねる事は無理で、一部分だけでも取り入れてもよいのでは。」
- 5、「防災訓練が面白くないとの意見があるが、同じ訓練でも一年経つと忘れていくことが多く、粛々と進めるのが良い、関心の薄い人を呼ぶためのイベントは良いのでは。」

- 6、「高齢者、幼児、痴ほう症、身障者など要支援者対象の訓練、講義をしていく事が必要だ。」
- 7、「今後、セミナーは基本編（啓蒙）でなく、発展編のセミナーを狙うようにしたい。」

